

令和 8 年 8 月 30 日(日) 10:00～

於：湯来西公民館 2 階 ホール

「シン・伝説の弓矢！」

本公開事業は、湯来の民話「阿弥陀ヶ峰物語」に登場するものと伝承されていた弓矢とその矢筒の所在が判明し、所有者に了解を得られたことで、事業として継続しています。

今回は、フジテレビ「世界の何だコレ!? ミステリー」で紹介・鑑定がなされたことを記念して、番組を通じて新たに判明したことを中心にお伝えいたします。

写真撮影はOKですが、展示品には絶対に手を触れないでください。

タイムテーブル

- | | |
|---------------------|--------|
| 1. 館長あいさつ | 10:00～ |
| 2. 湯来の民話「大蛇退治と弓矢」上映 | 10:05～ |
| 3. 弓矢及びその矢筒の公開・解説 | 10:20～ |

経緯

令和5年5月、湯来西公民館の職員が「湯来の民話」を読み、最後に「山川家※に伝わる」とあることに興味を持ち、調査を開始。(※仮名が使われたものと思われる)

インターネットのブログに幼い頃に見た旨を掲載された記事を見つけ、この投稿主を介して所有者に辿り着くことができました。

当初は弓だけがあるものと思われましたが、これをきっかけに所有者が家族に聞いて、矢とその矢筒も保管されていたことが判明しました。

その後、湯来西公民館及び湯来南公民館における2回の公開講座を実施しましたが、独自の調査も限界となったため、フジテレビ「世界の何だコレ!? ミステリー」に投稿したところ採用され、令和8年7月8日に放送されるに至りました。

また、テレビでは放送されませんでしたが、この取材を通じて、所有者宅にこれらの弓矢等の伝承がしたためられた巻物が新たに2巻発見されました。

新たに発見された巻物

- 『安芸國佐伯郡伏谷村 蛇ヲ射タル弓矢』

年代：明治時代（推定）

「出品人」という言葉は明治時代に使われだした言葉なことから

- 『大蛇退治と弓矢』（別紙）

年代：昭和50年代（推定）

筆跡から田村家の子孫の方が書いたのではと推測されることから

各伝承物のデータ

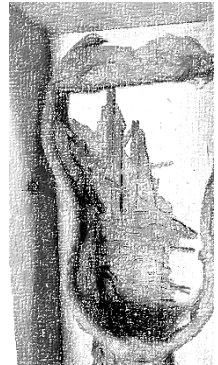
矢筒

材質：毛皮、竹

全長：約 50 cm 幅：最大約 18 cm 厚み：7.5 cm

年代：年代測定※の結果、1529年以降のものであることが判明した。

※放射性炭素年代測定（炭素 14 年代測定、資料最後）

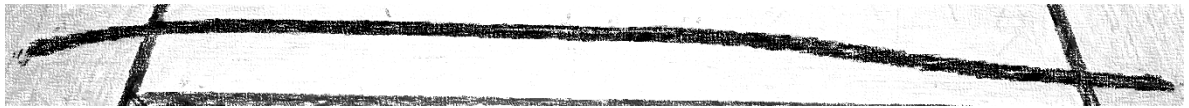


弓

材質：木製

全長：約 226 cm 太さ：長辺 約 3 cm 短辺 約 1.5 cm

年代：年代測定の結果、木の部分は 1460 年～1633 年、漆は 1420 年～1451 年のものであることが判明した。重なる部分はないが、測定に結果には誤差があるため、この隙間である年代（1451 年から 1460 年）に作られたか。



矢（3 種類あり、いずれも^{やじり}鏃の部分のみ）

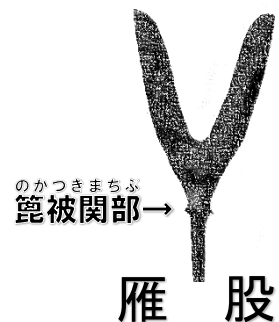
雁股（先が二股に分かれてその内側に刃がある形状のもの）

材質：鉄（磁石が付き、錆も見られることから。以下 2 本とも同じ）

全長：約 40 cm 幅：最大約 7.8 cm 直径：最大約 0.7 cm

重さ：約 95 g

年代：前述の弓と一緒に保管されていたことから、同年代の可能性が高い。（年代測定は鉄製品であることから、行われていない。）
ただし、次の 1～5 の理由から平安時代末期～鎌倉時代のものという可能性も残されている。



1. 「阿弥陀ヶ峰物語」に登場する主人公の九郎左エ門は平家の落人とされている。
2. 兵庫県上郡町^{かみごおりちょう}の「平家落人伝説の里 小野豆^{おのず}」というウェブサイトにも、同様の鏃 2 本（雁股・平根）の掲載があり、この鏃も平家の落人のものとされている。
3. 文化庁の「文化遺産オンライン」というウェブサイトにも、山梨県南アルプス市白根町大嵐^{しらねまちおおあらし}という地域の善応寺経塚^{ぜんのうじきょうづか}からの出土として、同様の鏃 2 本の掲載があり、こちらも平安時代のものとされている。
4. 湯来町、上郡町及び南アルプス市の鏃にはいずれも、^{のかつきまちぶ}篋被関部と呼ばれる突起の部分があり、その形状が非常に似ている。（同時代のものの特徴と思われる。）
5. 平安～室町時代にかけては、矢の形状が似通っているため、それだけでは時代を

特定できない。(御弓師 柴田勘十郎氏談)

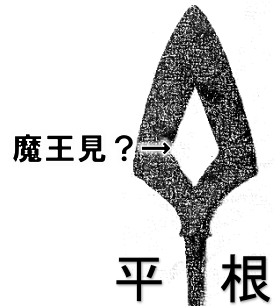
平根 (平たい形の鏃。「透かし」と呼ばれる穴が空いているものもある)

全長：約 27.5 cm 幅：最大約 5.1 cm 直径：最大約 0.7 cm

重さ：約 80 g

年代：雁股に同じ

※民話に記載のある菱形の穴「魔王見」はこの鏃の透かしと推測される。



槍先

全長：約 39 cm 幅：最大 1.5 cm 直径：最大約 0.9 cm

重さ：約 140 g

年代：雁股・平根に同じ

※柴田勘十郎氏の鑑定で槍先とのことであつた。狩猟の際、射た獣にとどめを刺す場合に槍が使用される例があるため、一緒に保管されたか。



湯来の民話「阿弥陀ヶ峰物語」が掲載されている書籍

	書籍名	出版元
1	安芸の宮島 広島の昔ばなし	山口青旭堂
2	新版 日本の民話 2 2	未来社
3	広島県の民話・伝説・民謡	広島県観光連盟
4	日本の伝説 2 1 広島県の伝説	角川書店
5	湯来の民話	湯来町教育委員会

同書物

芸藩通志：広島藩の代表的地誌。広島藩による修史事業として芸備各村に国郡志御用係を任命し提出させた「国郡志下調書出帳」をもとに、1825年完成。

江戸時代以前の安芸国と備後半国（浅野氏の領国）の地理や文化、歴史を知る一級の資料となっている。（主たる著者は頼杏坪^{らいきやうへい}で、漢学者 頼山陽の叔父）

抜粋文：糟石^{かすいし} 人立岩 並に白砂村にあり、糟石は輕鬆^{かるくさは}けて、酒糟のごとし、土俗三九郎糟といふ、其説を知らず、人立岩は昔山村某、蛇を射る所といふ

白砂書出帳（町誌）：広島藩に差し出された上申文書で、1819年のものとされる。
（芸播通史の元となったと考えられる。）

抜粋文：一 名勝

当村戌亥二当りかろうとゞ申岩組御座候、
其辺り二三九郎かすと申石御座候、
やわらか成石、酒かすのごとく重り居候、
其所より七八丁登り池の草と申所御座候、
山上二而御座候得共池之形チ水溜り沼の形御座候、
其辺り二人立岩と申石御座候、

此池二往古大蛇住候処、山村武膳与申仁、
右人立岩を小走二取、弓二而退治仕候由申伝へ。

意 訳：一 名勝

私たちの村の戌亥（北西）の方角に「かろうと」と呼ばれる大きな岩がある。

その近くに「三九郎かす」と呼ばれる石がある。

これは柔らかい石で、酒粕のように重たい。

そこから七八丁登ったところに「池の草」と呼ばれる場所がある。

山の上にあるが、池のような形をしていて水が溜まり、沼のようになっている。

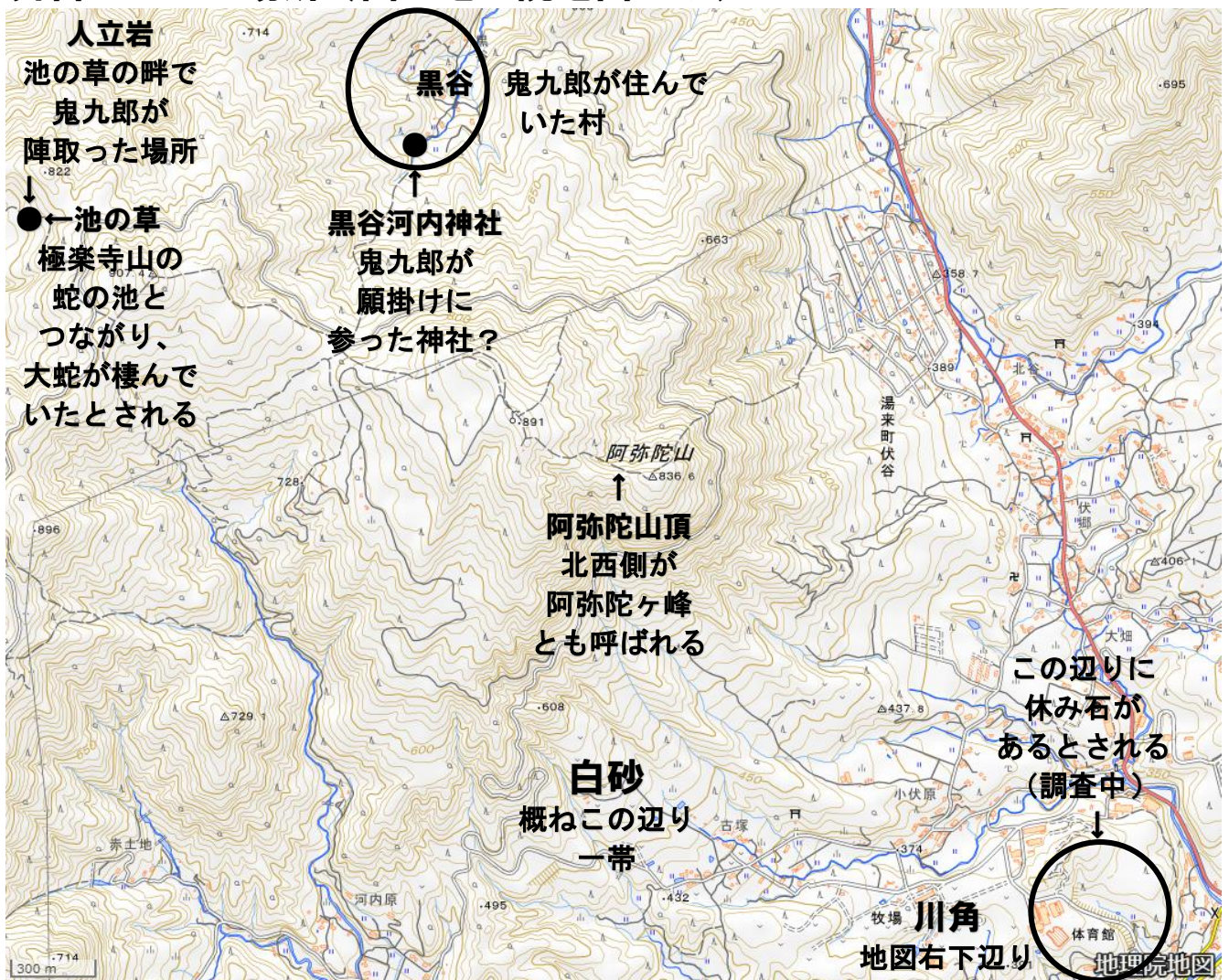
その近くに「人立岩」と呼ばれる石がある。

この池に昔、大蛇が住んでいたが、山村武膳という人が、

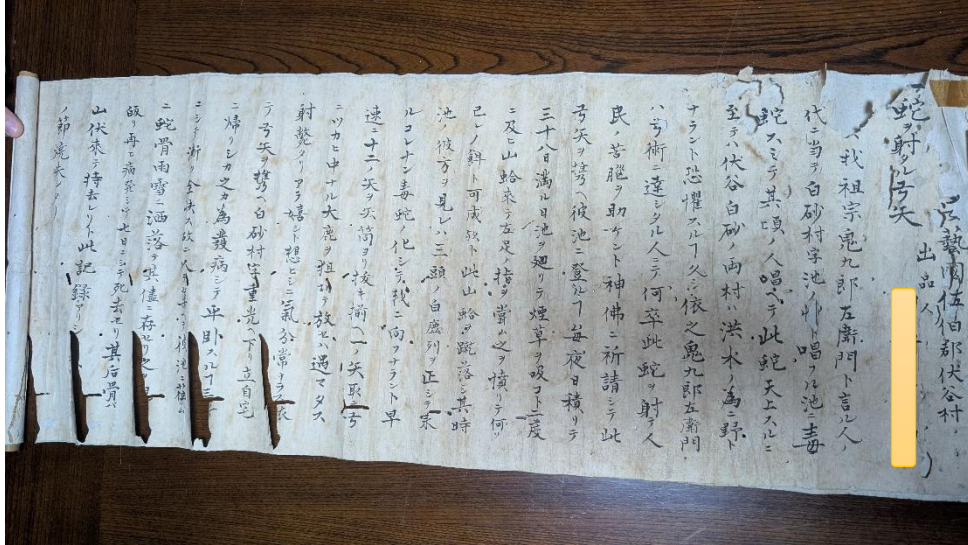
この「人立岩」まで小走りで行き、弓矢で大蛇を退治したと伝えられている。

※七八丁→7, 8丁: 約 770～880 メートル(1 丁は約109. 2m)

舞台となった場所（国土地理院地図より）



見つけた巻物



現在の「池の草」(R7.4.8 撮影)



※大蛇退治の舞台となった池。観音山の蛇の池と底が通じているとも言われている。

現在の「人立岩」(R8.3.17 撮影)



※芸藩通志の元となった白砂村作成「白砂書出帳」に名勝として紹介されている。
弓と矢筒の年代測定結果（※パレオ・ラボ年代測定施設での炭素14年代測定による）

25-01102表.xlsx/表2

表2 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年校正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-58825 試料No. 矢筒	-25.34 $\pm$ 0.19	253 $\pm$ 19	255 $\pm$ 20	Post-bomb NH2 curve (Hua et al 2021, Reimer et al 2020): 1641-1661 cal AD (62.31%) 1789-1792 cal AD (5.96%)	Post-bomb NH2 curve (Hua et al 2021, Reimer et al 2020): 1529-1539 cal AD (3.29%) 1635-1667 cal AD (72.36%) 1782-1796 cal AD (15.38%) 1945-1945 cal AD (0.10%) 1948-1953 cal AD (4.32%)
PLD-58826 試料No. 弓 (材)	-26.40 $\pm$ 0.18	355 $\pm$ 19	355 $\pm$ 20	1479-1520 cal AD (37.17%) 1588-1621 cal AD (31.10%)	1460-1464 cal AD (0.91%) 1468-1526 cal AD (43.45%) 1555-1633 cal AD (51.09%)
PLD-58827 試料No. 弓 (漆)	-26.38 $\pm$ 0.16	475 $\pm$ 19	475 $\pm$ 20	1427-1442 cal AD (68.27%)	1420-1451 cal AD (95.45%)